

2010年12月

第44号

発行所
高野山大学図書館
閲覧室

それゆけ！ としよかんだより



古典籍逍遙

【第十回】 図書館長 武内孝善

『真然僧正伝』 一冊

【書誌データ】

袋綴装、一冊、江戸時代後期写、たて 27・2 センチ、よこ 19・4 センチ、無界、緒紙、半丁 6～13 行、墨付き 91 紙、表紙とも 98 紙、紺色雲気紋表紙、

『真然僧正伝』は、最初に収載されている史料名であって仮称でしかありません。本書には、つぎの六種の伝記史料を収録します。六種とは、①真然僧正伝、②明師伝、③本覚大師益信僧正伝、④真雅僧正伝、⑤李華撰「善無畏三蔵碑銘」、⑥東宝記第一の六つです。本書には、「口入田覚了」なる墨書が散見され、かつて口入田師が所蔵されていたものであることが判ります。

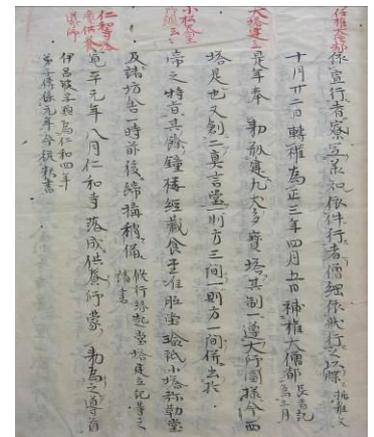
ここで、六つの伝記史料の内容をかいつまんで記してみましよう。①は、空海がわが国ではじめて計画した密教伽藍である高野山の堂塔を完成させた真然の、誕生から示寂にいたる八十八年の生涯を編年体で記した伝記です。ここには、『中院譜』『御手印縁起』『貞観十七年自記』など37種の史料がもちいられています。私の知るかぎり、明治以前に、真然の生涯をこれほど詳しく編年体で記した史料は見たことがありません。しかし残念ながら、まったく新しい情報は見あたりません。特色をあげるならば、いくつかの説にわかれるとき、元亨二年(1322)に成立した『元亨釈書』の説を真実とみなす点です。

②は、仁和寺にかかわる十八名の僧の略歴を記したものです。それらの僧名をあげると、1 我覚寺大僧都寛忠、2 法三宮真寂、3 成就院大僧正寛助、4 慈尊院濟暹、5 禅誉僧都、6 仏頂坊頼舜、7 龍象房行暹、8 保寿院大僧正覚成、9 尊寿院大僧正寛遍、10 西院大僧正信證、11 真乘院僧正印性、12 円城寺大僧正禎喜、13 心蓮院法印世毫、14 宰相阿闍梨心覚、15 喜多院御室守覚、16 蓮花院宮大僧正道尊、17 理智院法印良遍、18 真光院大僧正禅助となります。時代的にみると、延長五年(927)に入滅した真寂から元徳二年(1330)の禅助まで約 400 年間にわたっています。出典がまったく記されていないのが惜しまれます。

③は、外題の左に「益信禅定法皇真寂(齐世)」とあって、益信伝だけでなく、益信から灌頂を受けた寛平法皇、その息で法皇から受法した真寂の三名の伝記を収載しています。八世紀後半の真言宗は、天台宗の後塵を拝していたといわれます。その失地回復に力となったのが寛平法皇の真言宗への帰入であり、その密教の師となったのが益信でした。ともあれ、③に収載された三人の伝記は、標目・本文・賛・付法弟子で構成されており、この形式および標目から、醍醐寺祐宝が撰述した『伝灯広録』が参照されていることはまちがいありません。なお、真寂の伝は、②に比べて、こちらの方が詳しいです。

④は、空海の実弟で第三代の東寺長者をつとめた真雅のもっとも古い伝記です。『日本三代実録』元慶三年(879)正月三日条の真雅卒伝の典拠となっていることでも知られ、寛平五年(893)六月三日の奥書があります。貞観寺僧正と称されるように、時の権力者・藤原良房を檀越として壮大な伽藍をもった貞観寺の開山でもありました。⑤は『大日経』を漢訳した善無畏三蔵にかんする根本史料の一つであり、⑥は杲宝の撰になる東寺にかんする根本史料の一つ『東宝記』八巻の第一巻目です。

これら六つの史料に明確な関連性はみとめられませんが、①③④⑥からは初期の真言教団が成立する過程で重要な役割をはたした僧伝、および史料を一括しようとしたとも考えられます。



図書館文化講座とミニコンサートを開催しました！

第5回図書館文化講座『世界遺産概論』 10月21日(木) 16:40~17:40

講師：和歌山県世界遺産センター主査 日下明典先生

「世界遺産とは？」から話は始まり、世界遺産の種類や日本における世界遺産の紹介、「紀伊山地の霊場と参詣道」について詳細に説明して下さいました。



第3回図書館ミニコンサート『お箏ミニコンサート』11月8日(月) 17:00~17:40

演奏：高野山大学非常勤講師 桜野清里先生 同女子寮寮監 糞谷有紗さん 同卒業生 青木正寛さん



曲目
さらし風手事
初うぐいす
桜ゆらら



図書館の蔵書印(1) 図書館員 木下浩良

「高野山小教院」の蔵書印

高野山大学は、明治19年(1886)開校の古義大学林を始まりと公称していますが、実はそれより以前に高野山には、淵源となる近代的な学校がありました。明治維新直後の明治2年(1869)には、講学所という学校の存在が確認されています。そこでは真言宗を勉強する内典局と、一般教養にあたる外典局がありました。

明治5年(1872)になると、明治政府は全国の僧侶・神官を教導職という無給の官吏にして、神仏合同の布教を義務づけました。その教導職の教育と統轄をしたのが大教院で、その下に府県ごとに中教院、さらに地方ごとに小教院ができました。高野山にも、同年に高野山小教院が開校しました。同院では、講学所と同じで一般教養に相当の力を入れたカリキュラムが組まれていました。洋学と称した英語教育(スペリング・リーダー・グラマー)・聖書・哲学等の科目も開講されていました。

そして驚くことに、そこには既に図書館の前身がありました。係員を司籍とって、図書の発注・受入・貸出・点検を司っていました。図書館では、その高野山小教院で受入れた図書を認めることができます。図書には、「高野山小教院」とある方朱印の蔵書印が押されています。本学図書館の歴史の第一ページを綴った図書群です。(つづく)

2010年12月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

2010年11月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4

	9:00-18:00		13:00-18:00
	13:00-18:30		9:30-16:30
	9:00-18:30		閉館

切り取り

図書館通信

第6回図書館文化講座

『高野山の年中行事について-夏安居を中心として-』

講師：日野西真定先生(高野山大学元教授)

日時：11月25日(木) 16:40~17:40 場所：高野山大学本館205号教室

第7回図書館文化講座

『古典籍の世界』 講師：武内孝善先生(高野山大学図書館長)

日時：12月21日(火) 16:40~17:40 場所：高野山大学本館205号教室

第4回図書館ミニコンサート

『クラシックギターミニコンサート』

演奏：伊藤陽馬さん(密教学科3回生)

日時：12月14日(火)17:00~17:30

場所：図書館閲覧室

(編集後記)

寒くなりましたね。暖かくして風邪を引かないように気をつけて下さいね！

(石原)

学生さん・一般の方どなたでも無料で参加していただけます！当日直接会場にご参集下さい。お待ちしております

発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡高野町高野山385高

野山大学図書館 閲覧室

Tel:0736-56-3835

Fax:0736-56-5590

E-mail service-lib@koyasan-u.ac.jp

